

平成22年度森林整備革新的取組支援事業 試行的課題選定一覧

番号	モデル地域名	申請者名	試行的課題	実施内容	備考
1	中日本圏域	愛知県森林組合連合会	平成21年度・22年度継続申請 「再造林地における低コスト針広混交林造成手法の実証」	現在では、針葉樹と広葉樹の混植における適正な植栽配置や植栽密度が明確にされていないため、疎植や下刈省力化でコストダウンを図りながら、有効な手法を探索。	211
2	中日本圏域	吉田本家山林部	平成21年度・22年度継続申請 「ヒノキポット苗の試作と再造林」	挿し木によるヒノキポット苗の生産を行い、植栽本数の見直し・植栽人工数の削減・下刈の省力化により再造林のトータルコストの削減につなげる。	206
3	岡山	前田林業株式会社	平成21年度・22年度継続申請 「コンテナ苗の育成による植林費の軽減に向けてpart4」	前年度に植栽したコンテナ苗の成長の他、下刈回数の軽減を目的に設置した木質繊維ボードにより雑草木の繁茂がどれだけ抑えられているか等追跡調査を行う。	10100
4	宮崎	ヤマサンツリーファーム	平成21年度・22年度継続申請 「速水林業方式によるポット苗の生産・植栽による実証」	ヒノキポット苗の先駆者である速水林業の支援を受け、スギでのポット苗生産に取り組む。また、ポット苗専用の植栽器具開発も行い、植栽の省力化を図る。	20401
5	奥久慈八溝	藤田建設工業株式会社	平成22年度申請 「高密度路網型高性能林業機械作業システムによる列状間伐の有効性」	耐久性の高い四万十式作業路を集材に配慮して高密度に配置し、グラップルによる集材工程を省略しコストを削減する。また、列状間伐と定性間伐の経費等の比較調査も行う。	
6	岡山	作州かがみの森林組合	平成22年度申請 「ウインチ集材とグラップル集材の作業効率及び林地に与える負荷検証」	同一条件地において、高密度路網による集材方式と地引ウインチ方式及びスイングヤードによる集材方式のコスト比較を行い、作業特性を検証し作業方法選定基準の明確化を図る。	
7	四国地域	久万広域森林組合	平成22年度申請 「久万林業の新しい施業体系の構築に向けて」	路網の高密度化により集材距離を短縮するとともに、勾配と切土高を抑え高性能林業機械の作業性向上を図る。施業地は定性間伐を行う通常管理林と、定性間伐・斜め列状間伐を行う未整備林に分け、収益比較等分析を行う。	10300
8	四国地域	住友林業フォレストサービス株式会社	平成22年度申請 「セラミックパイプ及びコンテナ生産の植栽苗を用いた作業効率及びコスト改善の検証」	実生由来の裸苗、ポット苗、マルチキャビティコンテナに挿し付けた苗、セラミックパイプ苗に挿し付けた苗の計4タイプの苗を使用し、造林作業効率の改善と労働負担を軽減し、造林コストを削減する。	20401
9	熊本	株式会社泉林業	平成22年度申請 「車両系集材不適地でタワーヤードを活用した魚骨状列状間伐」	ホイール式タワーヤードを用いて葉枯らし乾燥を組み合わせた魚骨状列状間伐を行い、作業の生産性と残存木への損傷の程度を明らかにし、急傾斜地や岩石地など車両系集材不適地での低コスト間伐実施技術の確立を目指す。	201
10	鹿児島圏域	種子島森林組合	平成22年度申請 「条件不利地域における革新的な森林施業技術の導入と検証」	条件不利要因（離島、低地位）の中、低コストで崩れにくい路網と生産性の高いプロセッサを軸として施業コストを削減し、利用間伐体制への移行を図る。また、高密度路網による車両系集材と通常路網による架線系集材の生産性比較も行う。	23701

備考欄の数値は、システム事業体番号